

海外情報

カナダの酪農家とロイヤル・ウインター・フェアの見学報告

情報分析センター 青沼 実穂
前橋種雄牛センター 勝見 風太
岡山種雄牛センター 狩野 春香

令和7年11月9～16日、SEMEX主催の「カナダの酪農家とロイヤル・ウインター・フェア2025見学ツアー」に参加し、貴重な経験を得ることができましたので、報告いたします。今回のツアーの日本人参加者は野澤組から2名、酪農家3名、当団職員3名の合計8名でした。牧場訪問ではカナダの酪農家7件とSEMEX本社を見学しました。ロイヤル・ウインター・フェアでは世界的にも大規模なホルスタインショウを通じて世界トップレベルのホルスタインを見ることができました。

酪農家訪問

(1) Green Acre Farms

【概要】

搾乳頭数：165頭 305日乳量：13,152kg
乳脂率：4.5%
飼養形態：フリーストール（搾乳ロボット3台）

ゲノミック評価を行い、上位25%にホルスタイン種選別精液・中間層にホルスタイン種通常精液・下位層に肉用牛精液を使用することで、効率的に牛群の改良を行っていました。交配する種雄牛は、A2/A2の遺伝子型であること・体型や乳成分の評価値が高いこと



元パーラースペースに設置された搾乳ロボット

を重視し、ヤングサイアの精液をメインで使用しています。子牛については、元々パーラーだった場所で飼養しており、哺乳ロボットも導入しています。

(2) Claynook Farms

【概要】

搾乳頭数：150頭 305日乳量：12,100kg
乳脂率：5.0%
飼養形態：フリーストール（搾乳ロボット3台）

候補種雄牛を多数造成している牧場です。牛床には砂を利用しており、牛がより清潔に保たれるので快適に過ごせるとのことです。また、この牧場の牛群は、全体的に体高が低めであることが特徴として挙げられ、150cm台前半までの牛が多いそうです。乳脂率・乳蛋白率を最も重視し、次いで体型を優先して改良しています。



砂の牛床

(3) Cranbrook Farms

【概要】

搾乳頭数：440頭
飼養形態：フリーストール（50ポイントロータリーパーラー）
※DHI（牛群検定）は未実施

総飼養頭数は、現在約800頭です。プレ・ポストデ
ィッピングはロボットが自動で行うため、搾乳作業は
乳頭清拭・ミルク装着と牛追いの2人のみで行うこ
とができます。未経産牛にはホルスタイン種選別精液
を、経産牛には肉用牛精液を使用しており、肉用子牛
も一定の収益源となっているようでした。子牛の哺乳
には、バルク乳をミルクタクシーに入れて保温し、1
頭につき3.4Lを1日2回給与しています。



ロータリーパーラー

(4) Summitholm Holsteins

【概要】

搾乳頭数：450頭 305日乳量：14,585kg
乳脂率：4.0%
飼養形態：フリーストール（搾乳パーラー）

自社の加工工場を持ち、牛乳や乳製品の製造・販売
まで行っています。飼養している牛は全頭ゲノミック
評価を実施し、自社の加工用に回す生乳はA2/A2の
みとなるよう分けているそうです。牛舎に隣接したシ



ショップで販売される乳製品

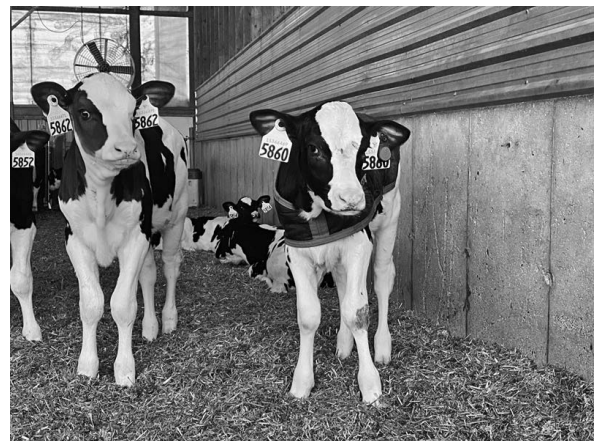
ョップでは、牛乳・乳製品の他にもオリジナルグッズ
が多数置かれていました。飼料は、コーンサイレー
ジ・オーツサイレージを交互に生産し、ストローは購
入しています。また、哺乳を専属の人が行うことで、
子牛の異変に気付きやすくなり、分娩前後の別群へ
の移動を極力少なくしているそうで、牛のストレスを
最低限にするための工夫がされていると感じました。

(5) Hoenhorst Farms

【概要】

搾乳頭数：380頭 305日乳量：11,800kg
乳脂率：4.2%
飼養形態：フリーストール（搾乳ロボット8台）

現在、4代目になる女性オーナーが経営している牧
場です。全頭ゲノミック評価を行い、上位45%の未経
産牛に性選別精液を使用しています。繁殖能力の改良
に力を入れており、種雄牛を選定する上で繁殖形質を
重視したり、2回目の授精で受胎しない牛は売却等
で淘汰しているとのこと。また、最近導入したとい
う子牛のイヤータグは、哺乳ロボットにも対応して
おり、健康管理に役立っているそうです。搾乳牛は、
初産牛と4産以上の経産牛を同じ群にしています。ベテ
ラン個体と同じ群にすることで、初産牛が早くロボッ
トに慣れるという考えのようです。ロボットの訪問回
数制限は、個体ごとに変えています。



子牛のイヤータグ

(6) SEMEX

今回は、SEMEXのグローバル本社 (Guelph, Ontario)
を視察しました。近年の売上内訳は、凍結精液78%・
受精卵9%で、その他ゲノミック評価関連業務等の利
益があるようです。今回見学した本社のほか、アメリ

カやハンガリーを含む4か所で種雄牛を飼養しています。本社で飼育されているのは、ほとんどが乳用種雄牛です。

採精場では、肉用種が台牛として使われており、床全体に敷料が厚く敷かれていました。種雄牛の耳には赤や青のタグが付いており、色によって種雄牛の気性を一目で識別できるようにしているそうです。また、種雄牛は、月1回の洗体のほか、2週間に1回マッサージを行っています。凍結精液の生産は基本的に24時間稼働で、通常精液は1日におよそ2万本を生産しています。

カナダでは、2023年から世界で初めてメタン排出量の遺伝評価を行っており、種雄牛の選抜においても考慮される形質の一つとなっているそうです。また、交配相談システム「SEMEX GO」、ゲノミック評価値等の管理が行える「Semex Solutions」といったツールも提供しています。

(7) Bosdale Farms

【概要】

搾乳頭数：195頭 305日乳量：12,500kg
乳脂率：4.1%
飼養形態：タイストール・フリーストール（搾乳ロボット3台）

体型改良に力を入れている牧場で、共進会に出品する牛をはじめとする約60頭が、タイストール牛舎で管理されていました。フリーストール牛舎では、約130頭がロボットにより搾乳されています。牛群には数多くの体型「Excellent」獲得牛がおり、体型の良い若い牛に選別精液を使用して改良を進めています。交配する種雄牛は、乳脂率や乳蛋白率がマイナスでない牛の中から、乳器・肢蹄・尻を重視して選定しているそうです。



タイストール牛舎

(8) Walnutlawn Farms

【概要】

搾乳頭数：80頭 305日乳量：13,000kg
乳脂率：4.1%
飼養形態：フリーストール（搾乳ロボット2台）

こちらも、体型改良に力を入れている牧場です。著名な種雄牛「サイドキック」の生産牧場でもあります。全頭フリーストールで、敷料には砂が使用されていました。全体的に、前乳房の付着が良く、肋の構造に優れた牛が多い印象を受けました。



事務所に飾られていたサイドキックの写真

The Royal Agricultural Winter Fair 2025

会期：2025年11月7日～16日

会場：Toronto - Exhibition Place, Ontario, Canada

ロイヤル・ウインター・フェアは、トロントで毎年開催される大規模な農業の祭典です。メインとなる馬術のロイヤル・ホース・ショーをはじめ、様々な家畜・動物のショーや触れ合いの場、および数多くの出店・展示が行われています。

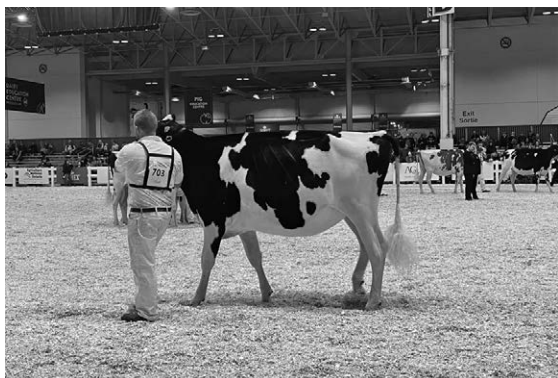


羊のショー

今回は、13～14日の2日間に開催されたホルスタインショウを見学しました。R&Wで未経産牛75頭・経産牛54頭の計129頭、B&Wで未経産牛237頭・経産牛227頭の計464頭が出品され、出品はカナダのみならずアメリカの酪農家からもされているとのこと。幕舎も展示の一部として、各牧場の看板などが盛大に掲げられていたのが印象的でした。



Red & Whiteショウの様子



ジュニアチャンピオン

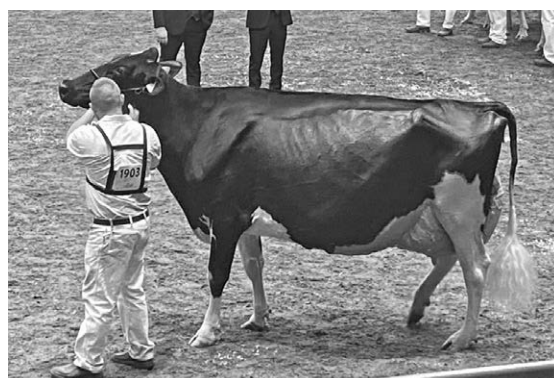
13日午前はRed & Whiteショウ（1～20部）、午後からBlack & White未経産牛のショウ（1～7部）が行われました。ジュニアチャンピオンは、アメリカで開催されたワールド・デイリー・エキスポでもジュニアチャンピオンを獲得した、7部のECHO GLEN MASTER IVY（父：マスター）が獲得。未経産牛クラスの段階で、既に胸の幅、強さのある牛が揃っていました。

14日は、Black & White経産牛のショウが行われました。当日朝、幕舎を見学した際に、どの牛も各部位の移行が滑らかで幅があることに加え、肋の開張・方向に優れているという点が非常に印象的でした。審査場で上位に上がってくる牛には、大きくて目立つ牛ばかりでなく、比較的コンパクトな牛も多くいました。牧場視察でも、大きすぎない牛を好んでいるという農家の話があったことから、北米においてもサイズ中庸

な牛への改良が進んでいるように感じました。グランドチャンピオンは、ALTONA LEA UNIX HERMINIE（父：ユニクス）が獲得。乳器の付着が強く、幅のある力強い牛で、圧倒されました。



Black & Whiteショウの様子



グランドチャンピオン

最後に

今回の研修を通じて、海外の酪農情勢や経営方式などについて実際に見ることができ、多くの発見と学びがありました。特にSummitholm Holsteinsは視察した牧場の中でも特に改良に力を入れており、乳牛改良についてより深い知見を得ることができました。また、SEMEX主催のディナーショーが開かれ、海外からの研修参加者やSEMEXの職員の方々とも交流することができました。ロイヤル・ウインター・フェアでは、ホルスタインショウだけでなく、カナダの農業に関する様々なブースを見て回ることができ、大変充実した1週間を過ごすことができました。

今回の研修に当たり、本研修を企画して下さったSEMEX社の皆様、そして研修期間中大変お世話になりました株式会社野澤組の皆様、当誌面を借りて深く感謝の意を表します。